

議事概要

日 時：平成28年1月13日（水） 10：00～12：00

場 所：中央合同庁舎3号館 8階 国際会議室

自動車整備関係従業員等へのアンケート調査からみる課題、既存調査との比較分析等について事務局から説明を行い、自動車整備要員に対する労働環境等に関する意見交換が行われた。次回開催は、2月下旬から3月上旬で調整となった。

- 給与に関して不満が高いというのはどの業界もある程度あり、給与が上がる道筋が見えないことが離職の原因の上位にどの業界でも必ず入るが、小さいピッチで昇給制度を入れるのがよいという話を聞いている。
- 長期休職者に対して最新技術をレクチャーするといった育成の観点もあると思うが、むしろ長期休職にならないようにするという視点もあるのではないか。例えば、全てブランクになってしまうのではなく、週に1、2回来て、遅れやノウハウ的なものを取り戻せるような工夫もあるのではないか。
- 人材交流など、金銭的なインセンティブやキャリアパス以外の形についても、今後、研究することがよいのではないか。
- やりがいというのはとても大きな要素である。給与を上げれば人材が確保できるのは、当然であるが、その場合、経営の検討が必要になる。
- やりがいを感じられることは、技術で仕事をしている人間にとって非常に大きなポイントではないか。当然、最新技術への対応は必要ではあるが、既存技術等今あるものに対してやりがいを感じられるような方策も必要ではないか。
- アンケート結果やこれまでの検討結果を背景として、整備の仕事はやりがいもあり、将来性も高いという、若い人へのアピールポイントが浮き彫りになるとよいのではないか。
- 学生が就職活動でインターンシップに行くと、会社の業務内容がよくわかったりする。そういう現場体験みたいなものを行うと、学生への情報提供としては好ましいのではないか。
- このアンケートで、今一般に言われている整備業界の人材不足だとか、魅力のなさみたいな話が客観的に出たという事実がある。今後はこれをどういう方向でやっていくのか、どういうメッセージを出していけるかが非常に重要。
- 新技術はどんどん入るが、既にある8,000万台には整備が必要であり、それを守ることに、安全に走行するために自動車整備士の役割が重要であることであるということはどう伝えるかというのは、非常に重要。

以上